

切り絵は
おもしろい？

毛利将範

Mouri Masanori



河童堂本舗





川の自然再生
2002



切り絵は
おもしろい？

毛利将範

はじめに

本書では、私の経験をもとにした切り絵のつくり方や道具、作品づくりのヒントなどを紹介しています。

ここでいう「切り絵」とは、たとえば一枚の黒い紙をナイフで切り抜いて何かを表現したもの、彩色する場合も、彩色した紙もしくは色紙いろがみに切り抜いた黒い紙を重ねて表現したようなものを想定しています。切ったりちぎったりした紙を貼っていくコラージュとは技法上、少し異なります。

切り絵は、初心者の方でも一、二時間も取り組めばだいたい要領がつかめる平易な技法です。だけどその懐は深い。だから私は切り絵を「おもしろい」と思っているのです。

本当に切り絵はおもしろいのか、この小冊子の紙数と私の技量でそれを証明することは不可能ですが、「やっぱり切り絵はおもしろいかも」と、少しでもそんなふうに思っていたただけたとしたら、それで良しとしましょう。

もくじ

はじめに …… 3

切り絵はだれでもできる だからおもしろい …… 6

切り絵は白と黒 だからおもしろい …… 8

切り絵はつながっている だからおもしろい …… 10

切り絵の手順 作品をつくってみましょう …… 12

切り絵の道具 紙とナイフがあれば始められる …… 18



切り絵を始めたわけ	… 30
切り絵の美	… 36
切り絵のユーモア	… 38
よい切り絵のために	切り続ける … 40
よい切り絵のために	写真を利用する … 42
よい切り絵のために	下絵の勢いを大事に … 44
よい切り絵のために	写生にでかけよう … 46
おわりに	… 54



切り絵はだれでもできる だからおもしろい

「これだったら私にもできるかも」「ちょっとやってみたいな…」

だれでもがそう思えるようなシンプルさとインパクトがあるのが切り絵。じつさい切り絵はだれでもできます。

絵が下手？

ご心配なく。そういうことと関係なく楽しめるのが切り絵なのです。絵筆で描く線がひよろひよろでも、題材が平凡でも、切り絵にすると不思議と魅力的で迫力のある白と黒に大変身することがあります。切り絵は、むしろ今まであまり絵を描いてこなかった人がユニークな表現を発見する可能性をさえもっていると思っ

す。

不器用？

大丈夫です。不器用な人は時間をかけることによってカバーできます。集中して打ち込むことの気持ち良さをそのぶん長く味わえます。そしてそのうち慣れてきて「自分はもしかしてもともと器用だったんじゃないか」という錯覚を味わえます。

絵が上手かどうか、器用かどうか、そういうことと関係なくすばらしい作品をつくることのできる可能性をもっています。だれでもできる。そこが切り絵のおもしろさなのです。

絵が上手で手先が器用？

ノーコメントです。



切り絵は白と黒 だからおもしろい

色彩に満ちている油絵や日本画が重厚なオーケストラだとすれば、紙の黒と切り抜いた白で表現する切り絵は軽快なピアノソロといった性格でしょうか。白と黒で表現する切り絵は、一人で自由に、レベルに合わせて楽しめます。だからといって最高の美をも表現することができるのです。

白と黒だけの、単純にみえるけど奥の深い切り絵。切り絵ファンが多いのも納得です。

配置にこそ私の主張がある。

私が敬愛する画家・クレーの言葉です。これを私は「絵の配置、つまり構成にこそ作者のセンス、考え方があらわれる」と解釈します。黒と白だけで表現しなければ

ばならない切り絵は、その「配置」の効果を最大限に表現できる芸術です。
黒と白しか選べない。そこが切り絵のおもしろさなのです。
え？ おまえの切り絵には色がついてる？
ノーコメント。



切り絵はつながっている だからおもしろい

切り絵は、型染め染色の型紙をつくる技法と似ています。衣類などを染める染色に使う型紙は切り抜いた複雑な模様を布に転写するためのものです。そのため型紙がバラバラにならないように切り抜き方に工夫がされています。

切り絵は染色に使うわけでもないのでバラバラに切り抜かれた紙を貼り合わせてもいっそうにかまわないわけですが、でもなぜか枠をついたり線でつなげたり、染色型紙の伝統が活かされている作品が多いです。もともとバラバラになると、切り離された「部品」を選び出して貼り合わせる作業が生じますし、切りあがったときの紙の存在感を味わう楽しみが減りますし、というわけで、私もできるだけつながった構図を採用しています。いかに不自然に見えないようにつなぐかという頭の体操

と、せっかく微妙につないでいた接点を失敗無く切り抜くことができるかというス
リルと、切り上がった一枚を「どうだ！」とヒラヒラとさせる気持ちよさと、切り
絵はつながっているからおもしろいのです。

え？ おまえの切り絵は、文字や目玉や鳥やら、あとでやたら糊づけしているだ
ろうって？

…。



完成した切り絵。見事に！つながっています

切り絵の手順

作品を作ってみましょう

切り絵の手順や道具は人により様々です。とりあえず私のおおまかな手順と使っている道具をご紹介しますのでご参考にしていただければ幸いです。

① 見る

絵画の基本はまずよく見ることです。切り絵にしたいものをよく見る。見るというのは全ての基本で、たとえば風景を見れば「風景切り絵」、石仏を見れば「仏切り絵」、人をよく見れば「人物切り絵」と、応用(?)は自由自在です。

私は写真もよく撮りますが、写真を撮っているときは構図や動きに気をとられて意外と細部は覚えていないものです。記憶して自分のものにするにはやっぱり純粹に「見る」というのがいいようです。

② 描く

黒い紙を切る前に下絵を描きます。鉛筆などで黒い紙に直接描いて切り抜く方法、薄い紙に描いて黒い紙と一緒に切り抜く方法などがあります。

私の場合は後者で、浮かんできたアイデアを手近にあるコピー用紙などにどんどん描いておき、気に入ったアイデアに手を入れて下絵を完成させます。

《下絵の小技》

下絵が完成したら、コピーをとって同じものを2枚用意します。1枚は黒い紙の



① よーく見る



② 完成した下絵



③ 黒い紙の上に下絵を重ねる

上に重ねて黒い紙と一緒に切り抜きます。もう1枚は、作品を台紙に貼るときの位置決めに利用します。

③ 重ねる

できあがった下絵を黒い紙の上に重ね、ずれないようにまわりをホチキスで数カ所留めます。

④ 切る

いよいよ切ります。手をよく洗って、呼吸を整え、気を落ち着かせ、集中します。下絵と一緒に切り絵用の紙を切っていきます。切り絵は紙を切って表現します。つまりナイフが絵筆。ナイフの使い方に慣れることが上達の一步です。

《切るときの小技》

切る際必ず絵柄の中の細かい部分から切り始めましょう。外側の輪郭は一番最後に切り離します。切る途中で下絵と黒い紙がバラバラになってしまわないための小技です。

⑤ 切る！

下絵の線にそって、ひたすら切り進めます。が、必ずしも下絵のとおりには切れるわけではありません。思いがけないラインが生まれる楽しみもあります。集中すれば良いラインが生まれます。とにかく集中、集中。

⑥ 貼る

切り上がった作品を鑑賞できるように台紙に糊で貼ってできあがり。台紙の裏に



③ 下絵と黒い紙の端をホチキスで留める



④ 細かい部分から切り始めます



⑤ ひたすら切る！

下絵のコピーを貼り、下からライトテーブルの光を当てて位置を確認しながら切り絵を貼ります。このとき糊をつけすぎると紙に皺ができる場合があります。ポイントになる部分に必要最小限だけつけて作品を止めるようにします。

《貼るとき的小技》

大きい作品を皺無く貼るにはスプレー糊が便利です。スプレー糊を吹きつけた部分を表にして（つまり、切り絵を裏返しにして）平らなところに置き、その上から台紙を貼ると、大きな作品でも皺ができません。

⑦ 自慢する

うまく集中できて、すつと自然に切りあがってくれた作品は、もう二度と作れないもののような気がして、大変いとおしいものです。できあがった作品は、ブログで公開する、展示する、公募展に出品する、絵手紙にして知人に送るなどして必ず自慢しましょう。誰かに褒められた、無視された、ここをもっとこうしたら？と言われた、そんな体験はかならず次の作品づくりの糧・エネルギーとなるはずですよ。



⑥ 完成！ これを台紙に貼ります

切り絵の道具

紙とナイフがあれば始められます

まず必需品の紙。切り絵とは紙を切る芸術なのです。そして紙を切るナイフ。基本的には紙とナイフがあれば切り絵は始められます。

より快適に切り絵を楽しむために、あると便利な文具もいくつかありますので私が切り絵制作時に使っている道具を紹介します。どれも近くの文具店や画材店、または百円ショップなどでも簡単に手に入るものばかりです。

① 紙

切る紙は一般的に黒い紙がよく使用されます。

洋紙ではタント紙がコシがありサクサクと切れ味も悪くありません。四つ切サイズ（38×53 cm）で50円くらい。画材店や文具店で簡単に入手できます。

そして、もつとコシがあるのが洪紙^{しふがみ}。洪紙とは和紙を柿の渋で加工し丈夫にしたもので、染色の型紙用として古くから使われています。私は、切り絵用に考案された「色洪紙」（株式会社大杉型紙工業）という和紙をよく使用しています。色洪紙は洪紙より少し薄く、そして黒く染められています。八丁判サイズ^{はっちようばん}（55×91 cm）で1,207円（2014年2月現在）。

② ナイフ

紙を切るには普通ナイフやハサミを利用しますが、私は、デザインナイフと呼ばれる替え刃式のナイフを使っています。替え刃式の刃先が鋭利で、持つ部分が鉛筆のように丸いのが特徴です。デザイン用品を扱っている画材店などで安く（400円くらい）手軽に入手できます。

刃先の角度は45度と30度の二種類が用意されており、切り絵用にはシャープな30度のものがおすすめです。

このナイフの刃は刃先が鋭利で、カーブなどを切ると欠けることがあります。摩擦したり欠けたりした刃をどんどん取り替えながら使います。染色用の型紙を切るナイフや木彫用の彫刻刀も利用できますが、これらを使用する場合は刃先を砥石で研ぐ技術も必要になってきます。

やはり一番手軽なのはデザインナイフでしょう。

③ カuttingマット



切り絵に使うナイフなど。左の二つが細かな切り抜きに向いているデザインナイフ



デザインナイフの替え刃（エヌティー株式会社）

ナイフを使うとき、机に傷をつけないために下敷きとして使用します。画材店や百円ショップで購入できます。私は、ライトテーブルの光を通しやすい半透明のA3くらいの大きさのものを愛用しています。机いっぱいのが大きさのものがあれば、机への傷を気にすることなくどこでもナイフを使えますし、大きい作品を制作するとき便利です。

④ あると便利な文房具

〈ホチキス〉 黒い紙と下絵を重ねて一緒に切る際、ホチキスで留めて下絵が動かないようにします。

〈糊〉 切り上がった作品を台紙に貼る際に使用します。文具店で普通に売っている液状糊とスプレー糊です。スプレー糊は大作を貼る場合に特に重宝します。

〈ピンセット〉 切り離された細かいパーツを貼るときなどがあると便利です。画材店で売っているデザイン作業用の先が細いものを使いやすいです。

〈ペイントナイフ・セロハンテープ・定規〉 ペイントナイフに液状糊を付け、黒い紙と台紙の間に差し込んで糊づけしたり、スプレー糊で貼った部分を液状糊で補強するときに使っています。細長いものが便利。セロハンテープは、下絵と黒い紙を補助的に止める場合や、失敗した部分の修正に使うことがあります。定規は長さを計るほかに、直線を切る際のナイフのガイドとして使います。

〈色紙^{いろがみ}〉 カラー作品を作るときに使います。発色がよく色数が多いのは日本色研発行の「トータルカラー」。65色とか93色がセットになっています。日頃から気に入っ

た色や模様 of 紙を集めておきましょう。

⑤ 台紙

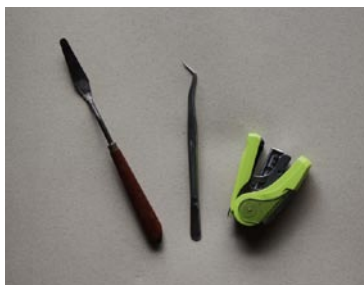
台紙とは、切った作品を貼るための厚手の紙のことです。

寄席などで見る紙切りや魔除けなどの目的で切られたもの、影絵などは切ったものをそのまま鑑賞しますが、切り絵を平面で鑑賞する場合には台紙に貼ります。

ケント紙や画用紙、和紙、厚手の色画用紙などを使います。私は、作品を印刷に



液状糊（左）とスプレー糊



左から、ペイントナイフ・ピンセット・ホチキス



ライトテーブル

使う予定のときは白い画用紙を、額に入れて鑑賞する場合は生成の和紙を使うことが多いです。

⑥ ライトテーブル

おもに作品を台紙に貼るときに使います。台紙の裏に下絵を重ねて、その下からライトテーブルの光を当てて下絵を透かしてみながら作品を貼ります。そうすると位地決めが正確にでき、また切り離された「部品」を貼るとき重宝です。

カラー作品を作るときにも使います。

切り絵にあわせて色紙を切ったり、切り絵に色紙を貼るときに、裏から光を当てて位置を確かめながら作業を進めることができます。

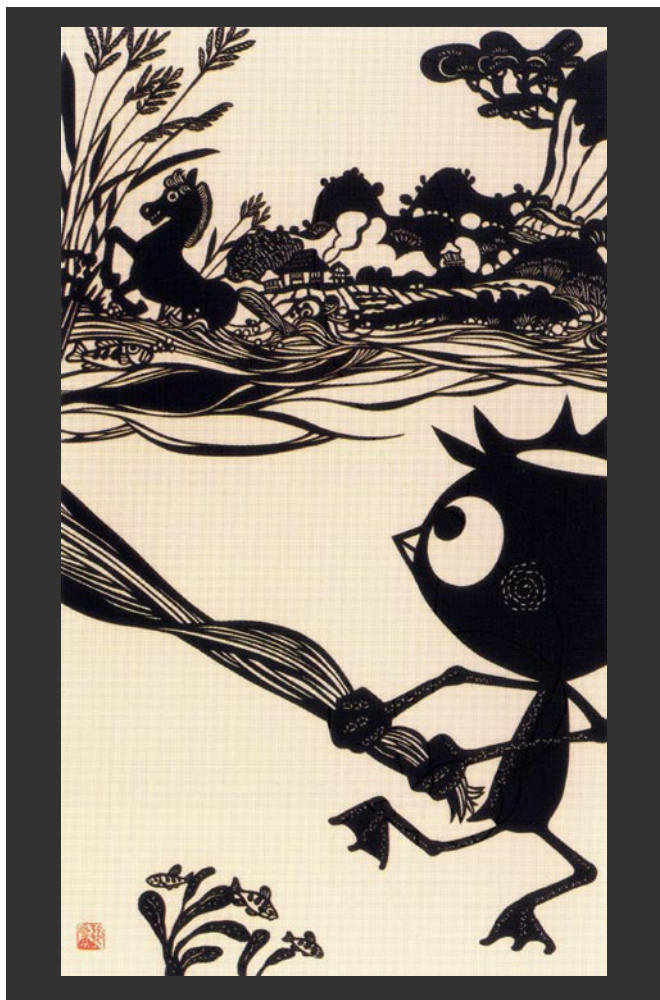
40 cm四方くらいで5×6、000円くらいからあり、画材店や写真用品を扱っている店で購入できます。長く続けるつもりなら思い切って買っちゃいましょう。



葉っぱっぱ 2013



獅子舞 2011



河童駒引譚 2013



せふち 2011



あしはら 2009

切り絵を始めたわけ

まず人類が切り絵を始めたわけは

私の本棚の片隅に古い一冊の本があります。それは中国の切り絵「剪紙せんし」を紹介したイギリスの本です。もう40年も前のことですが、私が学生るとき研修先の京都の古本屋で見つけて買ったものです。（そのときは、まさか自分で切り絵を始めようとは夢にも考えませんでした）

赤や黒の紙を細い様々なナイフでカットし、天女や鳳凰ほうおう、日常の一こまなどを表現し、魔除け災難除けの意味が込められているそうです。切り絵の始まりは、やはり紙を発明した国・中国なのでしょう。

また、インドネシアのバリ島などで行われる人形を用いた伝統的な影絵芝居や古代オリエントの革細工を源と言われているハサミを使ったスイスの精緻な切

り絵など、切り絵の技法は世界中に古くから存在しています。

そしてわが日本でも、古くから祭祀の飾りに切り絵の技法が用いられているものがあります。白い和紙にめでたい図柄や祭祀のデザインを刻んで神楽の祭殿に飾ったり、注連縄しめなわに吊したりする御幣ごへいです。その風習は現在でも生き続けています。

現在の切り絵のスタイルは、前述のように染色の型染め技法と似ており、実際、型染めの技術とともに発展しています。



中国の剪纸（せんし）
Chinese Paper-cut Pictures ALEC
TIRANTI 1964

型染め染色の技法では、渋紙という和紙を切って布地の絵柄となる型紙をつくり
ます。いわばその型紙が独立して鑑賞されるようになったというイメージです。染
織家の精細な技術が活かされた切り絵作品もたくさん発表されています。切り絵は
強いインパクトを持っているので、絵本・紙芝居・年賀状・絵手紙などにも大いに
利用されています。切り絵と同じ原理を利用した芸術作品には前述の染色型紙のほ
かにも、透かし彫り彫刻や影絵などがあります。

で、人類が切り絵を始めたわけは？

それは、心が健康になるからじゃないですか。切り刻むという行為は人間の想像
力を刺激し、能力を引き出す力があるのかもしれない。そして、表現者も鑑賞者
も心を癒されるのです。というわけで、あとは自分でも調べてみてください。

そして私が切り絵を始めたわけは

私が切り絵を始めたきっかけは、親戚に宛てた長男誕生の案内はがきに切り絵を
添えたことです。ナイフがつくった偶然の線に手書きにはないおもしろさを感じま



祭礼用の御幣（広島県）

した。切り絵は、自分で意図した以上の何かを私にプレゼントしてくれることに気づいたのです。それ以来切り絵のとりこになってしまい、好きな鳥たちをモチーフに、そして風景や子どもの表情を活かした童画などを制作しています。





コゲラ 1987

切り絵の美

「切り絵の美」と「白と黒」の対比の美しさというように、何を想起しますが、この頃ちまたの切り絵作品からは、そのような基準だけでは計れない様々な技術・発想を駆使した豊かで多様な美が溢れています。私の切り絵でも、少しでも美に近づきたいと願うのですが、現実は一歩も前進を実感できず、回り道ばかりしていることへの慚愧ざんきの念でいっぱいです。

そもそも「美」というのは何でしょうか。

小学生のとき、図工の教科書に載っていた棟方志功の版画にびっくりした記憶があります。山の風景をきれいに描けば褒められる。実物にそっくりな鶏を描けば廊下に掲示してもらえぬ。子ども心に漠然とそんなことを考えながら図工の時間を過ごしていました。この版画はなんなんだ!? 線は失敗したのかわざとなのかガリ



「聞風の柵」棟方志功 1952
『わだばゴッホになる』
日本経済新聞社 1975 より

小学校の教科書に載っていた
作品とは異なります。たぶん。

ガリ曲がりくねって、人の体は真っ黒。でもどうやら立派な先生の作品らしい。レオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロなどの作品と同じページに並んでいる。その小さく印刷された作品からは今まで見たことのないエネルギーを感じ、もっと自由でいいんだよと言っているようでした。

以来、棟方志功の作品や生き方は、美について考えるときにいつも私の根っこにあります。あのエネルギーな塊は意図して表現できるのか。美は天才だけが体現できるものなのか。われわれ凡人でも精進すれば美の入り口に立つことができるのか。洗練した技術の他にも、美のためにはもつと何かが必要なのか。

切り絵で美の入り口に近づけたと実感できる日を夢見て、それはいつになるか、あるいはもう到底無理なことかもしれないが、切り続けるしかありません。

切り絵のユーモア

「ユーモア」は、私が切り絵を構想するときに「美」と同じくらい大事にしているものです。が、このユーモアがまたやつかいです。意図すればするほど下心が見えて、意に反して鑑賞者を不快にするのがユーモアというものの不思議です。

私は故・宇治山哲平画伯の美とユーモア溢れる画業に心酔します。画伯が求める美は自ら「沸々たる静謐せいひつの世界」と言うように荘厳でもあります。その追究され尽くされた抽象の美の中にユーモアを見るのは私だけではないと思います。

画伯は「簡潔明瞭な形象と色彩の動きの中に自分の心情を託しているが、私は、私の近業の中には、ようやく自分の志向が素直に照映するようになってきた」（「美について想う」1970）と述べています。

一途に取り組み、ぎりぎりまで自身の内面に潜もぐり込んだとき、やっとユーモアは



「童」宇治山哲平 1972
東京都庭園美術館チケットより

サントリーホール（東京・赤坂）
のエントランスに宇治山哲平画
伯（1910～1986）の荘厳な壁
画を観ることができます。

鑑賞者に心地よく納得して迎えられるのでしょうか。
むかし近所に「何か用か（八日）、九日、十日。あつははは」毎回定番のおやじギャグを言つては笑う大人がありました。それを聞いたまわりの大人たちも、もう聞き飽きているはずなのに、その都度さも可笑しそうに笑います。私も笑います。おやじギャグという言葉には軽蔑のニュアンスも込められていると思いますが、私はこの雰囲気が入っていました。この無邪気なやりとりこそ、生活の中から生まれたユーモアであるといつてもよいのだろうかと思ひます。
宇治山哲平画伯のユーモアには迫れなくとも、せめておやじギャグの無邪気さでも、私の切り絵に心地よいユーモアを吹き込めたらと願ひます。

よい切り絵のために

切り続ける

よい切り絵をつくるにはどうしたらいいのか。

平凡な答えですが、続けるということでしょうね。続けていれば当然テクニクはついてきますし、絵づくりへの姿勢も変化向上してきます。

最初は平凡な作品かもしれませんが。紋切り型の表現かもしれませんが。でも、作品をつくり続けるうちに、自分の内面への旅が繰り返されて自分の内に潜んでいた独自の世界が次第にさらけ出され、また、題材を求めて社会に視野を広げ、何かから影響を受けた新しい造形を生む。続けることによって、始めた頃には想像もしていなかったような作品が生まれていることでしょう。

続けるためにはどうしたらいいのか？

それは、テーマを見つけることだと思います。好きなテーマを見つける。そして

長く続ける。ありきたりで済みませんが、これがよい切り絵をつくる最善の方法だ
と思います。

他の人の作品を鑑賞することも重要です。芸術作品は作者の技と魂であるとともに、時代や社会の空気を反映しています。新しい着眼点、知らなかった生き方、体験したこともない世の中との繋がり方。他の人の作品は発見や驚きの宝庫です。そんな発見や驚きは、また次の切り絵制作への意欲を生みます。



鍛錬 1993

よい切り絵のために

写真を利用する

切り絵の下絵をつくるとき、写真を活用する場合も多くあると思います。

写真をほとんどそのまま下絵に利用したい場合。そのときはコピー機を利用します。中間調がとんで白と黒だけに近い調子になるまでコピーを繰り返し、これをもとに単純化や省略をして下絵をおこします。すると写真をそのまま利用したリアルな表現の切り絵を作成することができます。

パソコンで画像処理できる方は、モノクロに変換して中間調をとばしていけば簡単に上記と同じ処理ができます。試してみてください。

写真を複写してみたら、スケールが小さくなって感動した風景などでも案外つまらない作品になってしまうことがあります。写真には適した画角というものがあり、大きく引き延ばせば迫力が再現できることがあります。また、写真を見ながら下絵

を描きおこしてみてください。写真をスケッチするのです。それでうまくいくことがあります。

なによりも写真は、対象物を細部までより正確に把握したいときに役立ちます。カメラをスケッチブック代わりに、いざ画題収集に。そして、利用する写真は自分で撮ったものにしませうね。



よい切り絵のために

下絵の勢いを大事に

私の下絵は、できるだけ何も見ないで自分の印象から発したラフな線で描き始めます。このラフな線には初々しい勢いがあります。そして勢いある種々の線は空間を形成しますが、この空間は、白と黒の配置を活かす重要な役割をもっています。ときには作者の意図を超えて特別の意味を放つ場合があります。この線の勢いと現れた空間を大事にしたいのです。

ラフな線の勢いを活かしながら修正を加え下絵を完成させていきます。印象から生まれたラフな線の勢いが残っている切り絵は、気にいった作品になることが多いです。

切り取る部分と残す部分と。細部にこだわらない部分とこだわる部分と。その按配が作品の繊細さとダイナミックさを構築していきます。そんな作品の出来栄を

夢見ながら下絵を整えていきます。何しろ白と黒の二つしか選択できないのですから。パズルを解いていくようなこの作業は、作品が完成したときの落胆か喜びかはさておいて、私にとっての至福の時間です。



風の笛 2012

よい切り絵のために

写生にでかけよう

やはり入念な写生はよい切り絵を生みます。

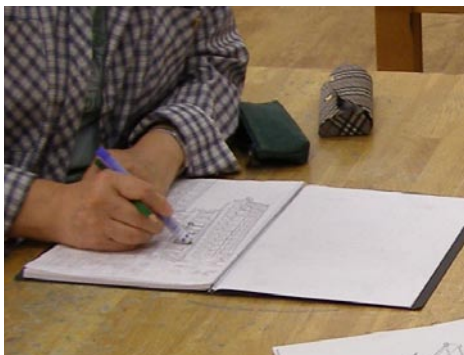
観て記憶する。そして、対象物の形象に触発されながら自分の限界を超えていく。写生にはそんな作用があると思います。

その写生画に直接手をいれながら切り絵の下絵にしていく。基本的にはその方法で写生したときの線の勢いを活かした下絵を完成させ、意図した切り絵を生み、魅力的な作品を誕生させることができます。

私の場合は、前項でも述べましたがラフな線でもう一度下絵を描きおこしてみます。このラフな線には、私が表現したいことの主観や先入観がたっぷり入っています。これに写生で得た客観的現実を加えながら修正をくり返して下絵を完成させていくのです。



スケッチする



スケッチに手を入れて下絵を完成させます

思いがけずよい下絵が誕生するというラッキーなこともあります。私の思いがこもった下絵の勢いある線と、写生で得た写実の記憶が融合したこの下絵で、私は自信をもって切り進めていくことができます。

さて、スケッチブックを持って：：今日はどこに行こう!?



湧き水 2008



雪玉 2009



じよやのかね 〈俳句：よしだ ゆりえ〉 2000



草ちまき 〈俳句：こもちや みやこ〉 1999



秋实 2011



夏草 2010

おわりに

切り絵を始めて二十一年。

作業場にちらばった紙の切り屑が足の裏や衣服について居間やトイレにまでもポロポロと拡がって、細かい作業ではナイフと紙とのせめぎあいがあつて、失望したり喜んだり。切り絵は不自由だなと、つくづく思うことがあります。なかなか思い通りにいかない。が、ほんとにたまに、突然変異的にわくわくもさせてくれるのです。切り上がった白と黒がふつと輝いて見える。そんなとき気分は有頂天に。作業場から家族のいる居間の方にふわふわと舞い出て、黒い紙の切り屑をまき散らし、またそのままくると作業場に戻ってはナイフを握る……。

絵は子どもころから好きでよく描いていました。小学校三年生のとき、担任の片山田先生にご自身が描かれた本物の漫画の原画を見せてもらい、ペンで紙を引つ

掻いた墨の質感と緻密さにびっくりしたことがあります。また、中学校では美術の榎崎益弘先生に水彩画の魅力を教わり、高校に通い始めて街でばったり会ったとき、「絵、描いてるか？」と声をかけられたこと。幼少年期にこの二人の先生に出会ったおかげで、いまに至るまで心根の中心に絵があり続けることができているのだと思つて、このご縁には特に感謝しています。そしていま、切り絵で発想し、切り絵で表現することの歓びを楽しんでいます。

大胆であり繊細である切り絵。切り絵はいつも私に新しいイメージを与えてくれます。日々の暮らしや気分が切り絵にすっかり見透かされてしまっていることに気づき、はっとすることもあります。そんな切り絵が私にとってはおもしろいのです。とてつもなくおもしろいのです。

本当に？ 切り絵は本当におもしろいのか。それを確かめるためには、まず、紙とナイフを用意してみましよう。



毛利 将範 (もうり まさのり)

1952年、広島県生まれ。大分県立芸術短期大学卒業後、グラフィックデザイナー・イラストレーターとして活動。1987年頃より独学で切り絵を始める。

おもな切り絵作品に『ふくろうとにわとり』、えほんシリーズ『はみがきだいすき』『はじめてのことはあそび』、童話シリーズ『たんでいトロップとゆめどろぼう』など。「俳句王(はいきんぐ)」毎日小学生新聞連載中。

<http://homepage3.nifty.com/moh/>

切り絵はおもしろい?

発行 2014年9月25日

著・切り絵：毛利将範

編集：ふくろう社

〒353-0005 埼玉県志木市幸町1-8-40-406

発行：河童堂本舗

<http://kappa.wook.jp/>

▽本誌に登場した切り絵のおもな掲載先

「Actiz」ゼンリン

「里川」新河岸川流域川づくり連絡会

「東武朝日新聞」東武朝日新聞社

「ナチュラルアイ」公益財団法人埼玉県生態系保護協会

「ふれあい広場」鈴木出版

「毎日小学生新聞」毎日新聞社

「技を訪ねて」ふくろう社

「和の趣」技術評論社

写真：青木明雄 毛利 登 毛利将範 山崎光久

© Mohri Masanori 2014

